

Library

町生涯学習センター図書室からの4月のおすすめ図書

Library Information

図書室からのお知らせ

■本の入荷について

図書室では、新刊本や話題の本など、新しい本を入荷しています。

本のリクエストについても、図書室カウンターにて受け付けています。皆さんの読みたい本や気になる本などありましたら、お知らせください。

また、お探しの本などがありましたら、お気軽にカウンターにご相談ください。

孤独から生まれた魂の物語

町田 そのこ 著 / 『52ヘルツのクジラたち』



中央公論新社

小説

自分の人生を家族に搾取されてきた女性・貴瑚と、母に虐待され「ムジ」と呼ばれた少年。孤独ゆえ愛を欲し、裏切られてきた彼らが出会う時、新たな魂の物語が生まれる…。52ヘルツのクジラとは、他の鯨が聞き取れない周波数で鳴く、世界で一番孤独なクジラのこと。胸が張り裂けそうな哀しみの先に、希望が湧く読後感です。

感染症を分かりやすく学べる！

はたらく細胞製作委員会 監修 / 『はたらく細胞&ウイルス&細菌図鑑』



講談社

児童書

新型コロナウイルス感染症を正しく学んで予防しよう！人気のアニメ「はたらく細胞」の内容に沿って、ウイルスや細菌のしくみと細胞の働きについて、豊富なイラストとともに分かりやすく解説しています。漢字にはルビがあり、小学校中学年にもおすすめです。子どもだけでなく、大人が読んでもためになる1冊です。

中村哲、アフガン最後の言葉

中村 哲 著 / 『希望の一滴』



西日本新聞社

一般書

戦争と干ばつ、そして飢餓。治療よりも水と食料が必要だと、1600本の井戸を掘り、65万人の命を支える用水路を建設した医師・中村哲。彼の働きで砂漠化した大地に緑がよみがえり、家族があたたかな食卓を囲む人間の暮らしが戻った…。2019年12月4日アフガンで凶弾に倒れた彼の活動を、数々の写真で振り返る1冊です。

日々の暮らしを切りかえるヒント

本多 さおり 著 / 『暮らしをまわす』



エクスマッジ

教養娯楽

家事、育児、仕事…。時間も人手も足りなくて、やる事が尽きない毎日。それでも、家事がスイスイ進み、イライラしなくなる小さな工夫と、心穏やかな日々をおくるための心掛けを、写真満載で分かりやすく紹介。すぐにも生活の中に取り入れられる工夫や、気持ちを前向きにするヒントがいっぱいの1冊です。

● 図書室の利用や、図書の検索・リクエストなどについてのお問い合わせ先
町生涯学習センター図書室
☎096-234-2447(内線331)

町生涯学習センター図書室のご利用について

■開館時間 午前9時～午後5時 ■休館日 毎週火曜日、年末年始 ■貸出冊数・期間 1人5冊まで、15日間

私 がおすすめしたい本は、「転校生は忍びのつかい」です。この物語は、主人公の浩太が転校生の宗助との出会いを通して少しずつ成長していく、一夏の友情の物語です。

私が特に心に残ったのは、浩太が宗助の秘伝書を取り戻しに行く場面です。浩太は最初、自分が標的になるのがこわくて、友達がからかわれていてもか

今月の案内人



石原 葵さん
(津志田区)

ばってあげられませんでしたが。しかし、宗助との出会いをきっかけに友達の力になりたいと思ひ行動

Read This Story!

～ My Favorite Story ～ 私のおすすめ図書

『転校生は忍びのつかい』（加部 鈴子 作）
浩太は夏休み直前に転校してきた宗助と「忍者の修行ゴッコ」をしているうちに親しくなるが、やがて彼の秘密を知ってしまう。ひと夏の、少年たちの友情が切なく胸に染みる物語。

するようになり、彼自身の成長を感じました。

この本の魅力は、親近感のわく登場人物です。気弱な少年、噂好きだけど頼れる女の子。近くにいいそうな人たちなので共感しやすく、自分自身の経験と重ねて読むことができます。この本を読むと、友達とのつながりの大切さを改めて感じます。ラストは少し切ないですが、みなさんにこの本の良さを知ってほ

しいです。

ぜひ「転校生は忍びのつかい」を読んでみませんか。

● あなたの「おすすめ図書」をご紹介しますませんか？

町生涯学習センター図書室
☎096-234-2447(内線331)

Public Hall

町公民館からのお知らせ

▶町公民館からのお知らせ

公民館主催講座のご案内

町公民館では、心豊かな生き方を応援するため、さまざまな講座を開催しています。各講座の詳細については、お尋ねください。

●町民大学

健康、歴史、福祉などの諸問題について講師を招き、学びます。全6回開催予定。受講料無料。

●郷土の歴史を訪ねて

町内外の歴史的な文化財や史跡を町文化財保護委員と訪ねます。

●ステップアップ講座

調理教室など生きがいある生活のための機会を提案する講座です。

●子ども講座

伝承遊びや工作などを行います。

- 公民館講座や町民大学などに関するお申し込み・お問い合わせ先
町教育委員会公民館事務局
☎096-234-2447(内線321)

町公民館出前講座 糖尿病を運動で予防

2月17日(水)早川公民館で、出前講座「糖尿病予防」を開催しました。

谷田病院の理学療法士である、小篠亮太さんと作田奈緒さんを講師に迎え、糖尿病予防について早川老人クラブの10人が学びました。



▲講師の説明を聞きながら糖尿病について学ぶ参加者

糖尿病は、インスリンの作用不足により慢性的な高血糖状態が続く疾患。小篠

さんは、口の渇きや多尿といった症状や神経障害・網膜症・腎症などの合併症などについて分かりやすく説明しながら、食後にストレッチなどを行う「運動療法」を紹介。参加者は、つま先上げ運動などを実践しながら、日々の運動を通して血糖値の調整や合併症予防について学びました。

町公民館主催講座

整理収納の基本を学ぶ

町では、日々の生き方を楽しくむきつけづくりを応援するため、さまざまな講座を開催しています。3月17日(水)町生涯学習センター・ホールで、主催講座「整理・収納講座」を開催しました。

して片付けしやすい空間作りのサポートを行っている出口りつこさん(熊本市)が講師を務め、整理収納の基本などについてわかりやすく解説。参加した37人が調理動線を考慮したキッチン収納方法や衣替えがラクになる衣料収納について学びました。



▲講師から片付けのコツについて学ぶ参加者の皆さん

出口さんは「片付けを通して心・お金・時間にゆとりが生まれ、暮らしが輝きますよ」と呼び掛けました。

Human Rights

人権 ～心豊かに暮らすために～

■ハンセン病問題を正しく理解しましょう

ハンセン病とは、1873(明治6)年に、ノルウェーのハンセン医師が発見した「らい菌」という細菌による感染症です。皮膚や末梢神経がおかされる病気ですが、治療を早期に行うことで、知覚障がい(痛みや温度感覚等がなくなること)、運動障がいなどは起こりません。感染症なので、遺伝することはありません。

2001(平成13)年5月の国賠訴訟で原告勝訴の熊本地裁判決以降、ハンセン病問題は大きく進展しましたが、差別意識の解消など残された

課題があります。

私たちは、他人事としてではなく、自分自身のこととして受けとめながら、すべての人の人権が尊重される社会を実現するよう努めていかなければなりません。

2003(平成15)年11月に熊本県内で発生したホテル宿泊拒否事件では、まったくの被害者である菊池恵楓園入所者自治会などに、多くの抗議や中傷の手紙などが寄せられました。

また、社会に残る偏見差別に苦しんだ回復者の御家族は、熊本地裁に提訴。2019(令和元)年7月に、ハンセン病家族訴訟判決が確定し引き

裂かれた患者とその家族の苦しみが「人生被害」として認められました。

私たちは、現在も故郷に帰れない回復者の方、そしてその家族であることを明かせない御家族の方が多くいらっしゃるという現実に目を向ける必要があるのではないのでしょうか。

「ハンセン病問題を正しく理解しましょう」(発行元/熊本県健康福祉部健康局健康づくり推進課)より

- 人権に関するお問い合わせ先
町教育委員会社会教育課
☎096-234-2447(内線324)